

# さとひがし

大津市立仰木の里東小学校 学校だより 2月号

☆自ら学び、心豊かで

たくましい子どもの育成

「み」 自ら学ぶ子

「や」 やさしく思いやる子

「げ」 元気な子



令和5年2月2日



## 東風解凍 はるかせこおりをとく

日本列島を襲った「寒波」は、この10年で最も強いとされており、このあたりでもたくさん雪が降りました。予想以上の積雪に大人はうんざりしてしましますが、子どもたちは大喜び。

雪が積もった日は、登校して来る子どもたちが朝からとっても元気です。その幸せそうな顔を見ると、こちらまで幸せな気持ちになります。

25日は、運動場一面にきれいな雪が積もり、休み時間にはたくさん子どもたちが雪遊びを楽しみました。雪の上を走り回る子、雪だるまをつくる子、雪合戦を楽しむ子…。それぞれに思う存分、サラサラのパウダースノーを堪能していました。毎日がんばっている子どもたちに、空からプレゼントが届いたように感じました。

さて、そんな寒い日が続いていますが、「立春」がもうそこまで近づいてきました。暦の上では、もうすぐ春。いよいよ暖かい足音が聞こえ始めます。

「逃げる」2月は、あっという間に過ぎていきます。今年度も残すところあと少しです。子どもたちと一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。



## 久しぶりのたてわり遊び（異学年交流）

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催を控えていました「たてわり活動」を、久しぶりに再開させました。約2年間開催できていなかったため、リーダー役の6年生の中にも、「どんなことをしていたか覚えていない」という子がいたそうです。そんな状況でしたので、最初に自己紹介をしている時間は、多くの子が緊張気味で、とても静かにスタートしました。それでも、グループごとのゲームが始まる頃には、あちこちから歓声が上がり、笑顔であふれるようになりました。

学校では、「たてわり活動（異年齢交流）」をとおして、子どもたちに「人と関わる喜び」を感じてほしいと考えています。活動にむけ、十分な準備の時間を確保し、振り返りの時間も必ずとって、「関わりあいの喜び」を自分たちの自信へとつなげていけるようにしていきたいと考えています。



「たてわり活動」において、高学年の子どもたちが自分の役割を自覚して一生懸命行動し、「低学年の子どもたちのお手本になれた」「みんなの役に立てた」と感じられたり、低学年の子どもたちが、高学年がしてくれたことに感謝し、「自分もあんな高学年になりたい」とあこがれの気持ちを持つことにより、それぞれが成長できるものと考えています。

今年度は、2年生が1年生を招待する「おもちゃランド」の取組を再開させたり、5年生の子どもたちと幼稚園・保育園の5歳児との交流（5・5交流）を充実させたりもしています。新型コロナウイルス感染症対策を十分に取しながら、今後も、異年齢交流に力を入れていきたいと考えています。

